

# 高津川試験地種苗生産試験

(昭和51年度)

鈴 本 博 也

## 1. 目 的

前年度に引続いて、鯉の種苗と食用魚の生産、配付を行ない、併せて淡水魚の養殖指導と普及を行なうことを目的とした。

## 2. 生 産

当才魚は、元池(各500m<sup>2</sup>)と小型の分養池数面を使い、15から25gものを生産した。

元池は、5月1日と5月17日に、1面当り15袋の鶏糞を施肥した。ミジンコの発生は普通であったが、この他にカイミジンコ(Herpetocypris sp)が爆発的に大繁殖した。

産卵は5月18日から実施したが、初めは、毛仔がふ化後数日で消滅または斃死し、全滅した。これは低水温、水変り、カイミジンコの被害、毛仔の虚弱などのためと推定したが、どれが主な原因かについては、断定できなかった。6月15日からの産卵、ふ化とその後の経過は良好であった。産卵、ふ化と経過を表1にしめした。

表1 産卵、ふ化と経過

No.	産 卵		ふ 化			そ の 後 の 経 過
	種別	期 日	期 間	平均水温	ふ化率	
		月 日	日間	°C	約 %	
1	真 鯉	5. 18	8	15.15	70	元池カイミジンコ大繁殖, 毛仔数日で消滅
2	色 鯉	5. 20	8	16.07	40	" " " , " " "
3	真 鯉	5. 29	7	17.86	40	産卵池鶏卵給与, 毛仔数日で斃死
4	色 鯉	6. 4	5	18.80	70	" " " , " " "
⑤	真 鯉	6. 15	6	19.48	70	元池カイミジンコ繁殖中, 毛仔の経過良好
⑥	色 鯉	6. 15	5	19.48	70	" " " , " " "
7	色 鯉	6. 27	5	19.66	70	元池カイミジンコ少ない, 毛仔の経過普通

但し、水温は午前10時観測 ⑤、⑥は三刀屋分場から卵を移入

また、7月初旬にキロドネラ寄生症が発生したので、ホルマリン20 ppm の薬浴で駆除した。二才魚は半流水式養魚池数面で、15 g ものを種苗として、100~200 g ものを生産した。養成は順調であったが、越冬中の3月初旬に細菌性疾病が発生したので、3月10日と3月16日にマラカイドグリーンで薬浴し、3月22日から5日間、ダイメトンを経口投与し、流行を防止した。

食用魚の生産は流水式養魚池で実施した。配合飼料（粗蛋白質84%）70%、サナギ26%、圧片ムギ4%（越冬用飼料）の割合で給与した。その結果は増肉係数2.5で、飼料効率40%の低率にとどまった。

旬別平均水温を図1にしめした。

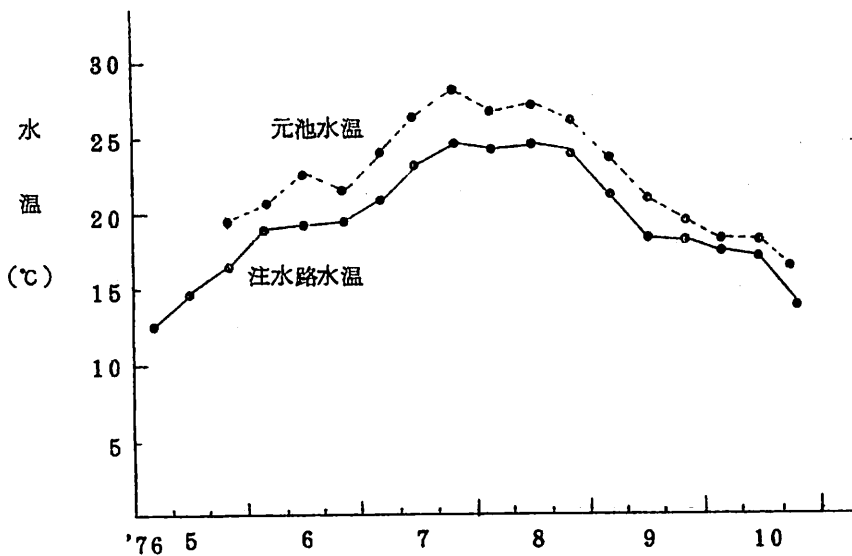


図1 旬別平均水温 (午前10時)

### 3. 配 付

当才魚は放流用、溜池用の種苗に、二才魚は流水池用の種苗として、市町村、農協、漁協を通じるなどして配付した。

食用魚は三刀屋分場を通じて配付した。

配付結果は表2にしめした。

表2 配 付

当 才 魚		二 才 魚		三 才 魚
真 鯉	色 鯉	真 鯉	色 鯉	食 用 魚
64,210 尾	7,550 尾	3,230 Kg	45 Kg	2,580 Kg

#### 4. 指 導

養魚指導は主に高津川、江川両水系沿いの流水養鯉について実施した。また、美濃郡柿木村地内に設置される予定の「やまめ、あまご種苗生産育成供給施設」に関する相談に関与した。

#### 5. そ の 他

カイミジンコ (*Herpetocypris* sp) の毛仔の食害について検討するため、水槽内に本種と毛仔(真ゴイ)を遊泳させて、状況を観察した。その結果、本種は毛仔を食べることを確認したが、詳細なデータを得るに至らなかった。今後継続して観察したい。